

沢入国際サーカス学校ってどんなところ？



学校紹介

本校は2001年9月開校し、今年で18年目を迎えます。NPO法人国際サーカス村協会が運営。代表は西田 敬一。沢入は「そうり」と読みます。群馬県みどり市東町の、廃校となった小学校の体育館を利用して日々練習しています。徒歩圏内にコンビニやスーパーなどのない自然豊かな山の中は、サーカス芸の鍛錬に

集中して打ち込むことのできる環境です。指導者は、ウクライナより、スポーツアクロという競技の元世界チャンピオンであるテシェンコ・ナジェージュダ先生をお呼びしていましたが、2019年春からは、当校の卒業生でパフォーマーの天野真志と、キエフサーカス学校出身でパフォーマーのピラ オリガが講師を務めています。卒業生はこれまで50名以上。

本来、本校は4年制なのですが、1年間などの短期でも、学びたい人々に門戸を開いています。本年度から前期4月1日～7月中旬、後期9月初旬～12月上旬までとなります。どのようなサーカス芸、演目を選んだとしても、専門性に特化した練習の前段階として、「基礎となる身体づくり」は欠かせません。サーカスは華やかに見える世界ですが、舞台上上がって人に自らの芸を見せることができるようになるには、ある程度の期間、日々の地道な鍛錬が不可欠です。そこで当校では基礎の身体づくりに重点を置いておきます。

2018年9月より一時的に休校していましたが、4月1日より授業を再開しています。入学をご希望の方、ご検討中の方は、まずは体験入学に来ていただければと思います。

西田校長より



沢入国際サーカス学校で学びたい人は、まず、3～4日間の体験入学をしてもらいたい。その期間に自分の身体がどのように動くかを知り、もっと身体を自由に、力強く使いたいと感じたら入学して、自分の可能性にチャレンジだよ。

3ヶ月、半年、1年と学んでいる内に、見違えるほど身体の動きが良くなるのを見るのは、僕らにもとっても嬉しい、素晴らしいことなんだ。

ここサーカス村には、学校の他に資料館もあるので、実技以外にサーカスを学びたい人もぜひ一度訪ねてほしい。ここで勉強して卒論を書いた人や本を1冊書きあげた人もいるし、ひたすらサーカスの本を読んでいた変わり者が逗留していたこともあるんだ。今、彼はどうしているのかな？

ひょっとしてここ野毛に、見に来ているかな？

ジヨングルルー座 & パスパルトウ座

サーカス学校を卒業後、首都圏はもちろんのこと全国のあちこち、さらに海外の会場、イベントなどで主に個人として活動しているサーカス学校の卒業生は約50名ほどいます。そのなかの10名のメンバーがふたつのショーを創って、今回の野毛大道芸に参加します。さまざまなパフォーマンスを披露しますので、ぜひお越しください。